

粘菌（変形菌）の一種「モジホコリ」は、実に不思議で面白い生物です。一番の特徴は、肉眼で見えるほど大きな変形体でありながら、単細胞（多核体）だということです。餌に向かって変形体を触手かシートのように「管のネットワーク」を伸ばしながら、時速1~4cmでアメーバのように移動します。眼も脳も神経系も存在しないのに、まるで知能を持った生物のようなふるまいをします。こうした行動から、粘菌は「脳のない天才」とも呼ばれています。

この性質を利用して、有名な迷路を解かせる実験もできます。迷路はスチレンボードをレーザーカッターで切り、底面に透明シートを貼って自作しました。迷路の道の部分には素寒天培地を厚さ3mmほど流し込んでおきます。スタート地点に変形体の塊を置き、一番遠いゴールに餌（オートミール）を置いて実験開始です。動きは遅いですが、タイムラプスビデオで撮影すると、あまり迷うこともなく、餌を探し当てる様子がわかります。まさに「脳のない天才」です。

粘菌の培養や観察をするのは、時がたつのを忘れてしまうほど楽しいです。これがホントの「粘菌生活」

(2023年9月上旬/タイムラプスビデオ 300倍速)

